

地域医療支援病院

小田原市立病院

Odawara Municipal Hospital

広報誌

No.21

2025

エール



②③ 小児科

④⑤ 新任医師紹介

⑥⑦ 新名称は「小田原市立総合医療センター」

⑧ 連携施設紹介

小児科

小田原市立病院小児科は、神奈川県内で分けられている小児医療圏域の中で、県西2市8町で構成される西湘地区において小児医療の中心的な役割を担う唯一の拠点病院です。一般外来診療のみならず、休日、夜間における救急診療や小児専門病棟を有する病院として入院治療も行っています。地域の開業医の先生と連携して一般診療から専門的な診療まで幅広く対応しております。日本小児科学会の「拠点病院構想（より大きな病院に多くの医師を集中的に集める）」に基づき、充実したスタッフ、医療体制を整えることができ、現在小児科医12人で診療を行っています。市立病院のみならず小田原市の乳幼児検診にも毎回参加していますが、国の政策による医師の働き方改革のため毎日全員が勤務しているわけではありません。外来、入院、新生児といった担当を日ごとに分担して対応しております。



小児科診療体制、救急について

平日の午前中は、一般外来（一部予約の専門外来）をおこなっています。どなたでも受診することはできますが、国の医療政策（病院の役割分担と医療連携）により、紹介状をお持ちでない方、しばらく受診していない方には選定療養費として診療費とは別に7,700円負担していただいています。これは小児、乳児医療証をお持ちの方でも必要となっています。携帯電話やパソコンからの予約もできますが、予約無しでも受診は可能です。

午後は、予約外来と、内分泌、新生児フォロー、アレルギー、循環器、神経、腎臓、血液免疫の専門外来を行っています。午後外来を希望される方は、一度午前外来を受診していただき、専門外来の予約を取るようになっています。また、紹介状をお持ちの方で疾患によっては直接専門外来の予約を入れることもありますので小児外来に電話してご相談ください。

受診患者さんの中には抵抗力の弱い方もいるため、平日午後の時間は、基本的には感染症などの一般の診察ができないこともあります。市中の医院を受診してもらい、そこで市立病院での受診が必要と判断されれば医院からの紹介をお受けします。紹介状のある患者さんはいつでも受け付けていますが、その場合でも外来に連絡してください。

また夜間、休日といった時間外は、救急患者さんの受け入れをおこなっています。ただ、当直医1人で病棟の入院患者さんの対応と外来の対応もしているため、患者さんが多いときや重症患者さんの対応が必要なときなどはお待たせしてしまうこともあります。時間外に受診を希望する際にはあらかじめ市立病院に電話をしてください。

当院は県西地域唯一の産科・小児科を備えた周産期に係る医療機関として、小児科医は分娩時にも重要な役割を担っています。帝王切開のハイリスク分娩や通常分娩でもリスクが高いなど必要な時には、小児科医も立ち合い、安全なお産ができるよう体制を整えています。



処置の様子

専門外来担当表

専門外来	担当医	内容・主な疾患
内分泌	西山	低身長、肥満、思春期異常など。 主な疾患：下垂体、甲状腺、性腺異常、糖尿病など。
新生児フォロー	小郷	未熟児、病的新生児の発達フォロー。
アレルギー	小堀	気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎など。 各ガイドラインに基づいた治療を行っています。食物負荷試験も行っています。
循環器	志水 河合（非常勤）	先天性心疾患、不整脈、川崎病後遺症などの治療およびフォロー。 心電図等学校検診の精密検査に対応しています。
神経	佐藤	てんかん、神経筋疾患の治療及び発達障害の療育相談。
腎臓	中村	腎炎、ネフローゼ、水腎症など。学校検尿の三次検診に対応しています。
血液免疫	松田	免疫不全、結核発症予防やB型肝炎垂直感染予防など、特殊感染症および血液疾患。

NICU (新生児集中治療室) について

市立病院は、県西地区唯一の新生児集中治療室 (NICU) を持つ病院として地域周産期母子医療センターの役割を担っています。在胎28週、推定体重1000g以上の新生児疾患を受け入れております。早産児、低出生体重児、新生児呼吸障害や、母胎の状況により出生後に特に注意が必要な状態の赤ちゃん等を対象としています。



保育器でのケアの様子



授乳の様子

診療案内

外来日	月	火	水	木	金
午前中	○	○	○	○	○

TEL 0465-34-3175 (代表)

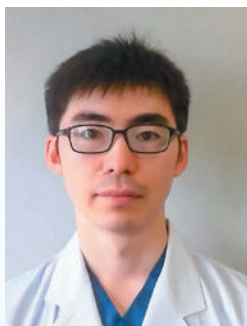
受診される場合は、事前予約が不要ですが、緊急の場合は電話でご連絡ください。外国人の方は、院内に医療通訳が不在のため、日本語がある程度理解できる方と一緒に受診をお願いします。



HPは
こちらから！

新任医師紹介

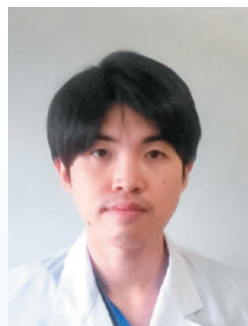
新しく赴任された医師の紹介になります。みなさま、よろしくお願いいたします。



脳神経内科
科長 石田 敦士



呼吸器内科
科長 安部 貴志



呼吸器内科
医師 丁 一澤



呼吸器内科
医師 吉田 有毅



消化器内科
担当部長 加藤 一樹



循環器内科
医師 石井 智大



循環器内科
医師 石井 遼太郎



小児科
医長 西山 邦幸



小児科
医長 志水 利之



小児科
医師 松山 花



小児科
医師 前川 仁孝



外科
医長 宮原 洋司



外科
医師 片山 大輔



外科
医師 安藤 樹史



整形外科
医師 東 莞爾



整形外科
医師 田中 大貴



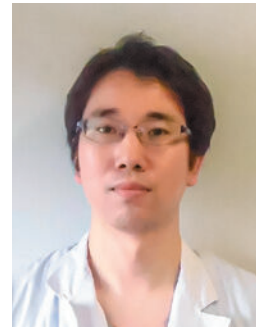
整形外科
医師 白石 尊史



整形外科
医師 角田 浩一



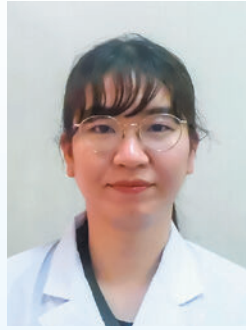
脳神経外科
科長 川崎 貴史



脳神経外科
医長 高木 良介



脳神経外科
医師 海野 光祐



皮膚科
医師 頼母木 まゆ美



泌尿器科
医師 染野 秀介



泌尿器科
医師 西野 優里



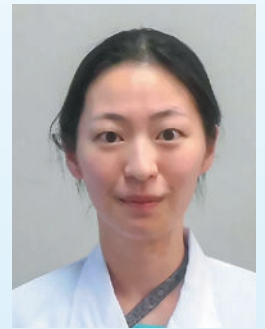
産婦人科
医師 田林 美紀



産婦人科
医師 前田 れな



産婦人科
医師 山澤 裕樹



産婦人科
医師 蒲谷 美紀



産婦人科
医師 森田 隼也



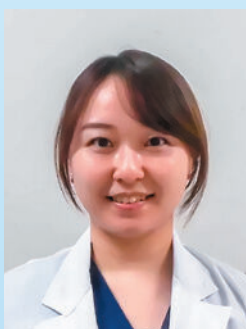
眼科
医師 水野 智香



放射線診断科
医師 石原 昂明



放射線治療科
医師 塚本 晃子



救急科
医師 吉澤 雪絵



麻酔科
医長 長倉 知輝

新名称は「小田原市立総合医療センター」

小田原市立病院は、小田原市をはじめとした2市8町からなる県西地域の中核的な役割を担う基幹病院として、救急・小児・周産期医療、高度医療、がん医療などの高度で専門的な医療を提供しています。新病院は、こうした機能を支える高機能な建物に生まれ変わることから、その開院に合わせて、名称を新しくします。



新たな名称は「小田原市立総合医療センター」

新病院の名称は、「小田原市立総合医療センター」です。小田原市の公設公営の病院であり、小田原市立病院の名称で永らく親しまれてきた皆様にもわかりやすく「小田原市立」を引き継ぎ、診療に関わる様々な機能を持ち28診療科（新病院では30診療科の予定）を有する総合的な医療を提供するだけでなく、医療人材を育成する教育・研修や臨床研究の拠点機能を有する県西地域の中心的な医療の拠点となる施設でもあることから、県西地域の基幹病院として中心的な役割を果たす「総合医療センター」という語を合わせ、新病院の機能や役割を簡潔に表現した「小田原市立総合医療センター」という名称にしました。

「小田原市立総合医療センター」の役割や機能

小田原市立病院は、昭和33年に現在地に開設し、9診療科110床でスタートしました。その後、昭和59年の全面改築時には、14診療科417床、その後も診療科が増えて、現在は、28診療科を有する総合病院となっています。

その間に、市立病院は、医療機能においても、通常分娩だけでなく、妊娠28週から産後7日未満の周産期におけるハイリスク分娩や低出生体重児の新生児医療に関し高度な医療を提供できる「地域周産期母子医療センター」や、ゲノム医療などがん診療の質の向上や地域の連携協力体制を構築する病院である「地域がん診療連携拠点病院」、重篤な病状の救急患者の救命を目的とし、24時間体制で高度な医療を総合的に提供する「救命救急センター」など、この圏域内唯一の機能を持ち、段階的にその充実を図ってまいりました。

しかしながら、現病院は、改築後40年が経過し、診療機能や療養機能面で施設上の課題が生じてきており、地域の基幹病院として果たすべき役割やさらなる機能の拡充が困難な状況になり、新病院の建設が急務となっております。

そこで、令和2年度に新病院建設基本計画を策定し、現地での新病院の建設に注力してまいりました。

新病院においては、目指すべき姿に、「患者に信頼される病院」、「急性期医療を担う病院」、「地域医療連携の強化」、「働く魅力のある病院」、「経営の健全化」の5つの柱を立て、これまでの機能に加えて、重症病床の増床や手術室の増室、歯科口腔外科の新設、ハイブリッドERやハイブリッド手術室などの新しい機能を備えます。また、個室を多く確保するほか、個人のプライバシーを尊重した広い4人部屋にすることで、安心した治療を受けることができます。地域医療においては、より高度で良質な医療を提供し、この医療圏域の地域医療構想に定める「地域完結型医療」の実現を目指してまいります。

< 目指す姿 >

急性期医療を担う病院

救命救急センターの充実
重症患者の治療と早期回復
遠隔ICUの設置
重症病床や手術室の充実

働く魅力のある病院

医療人材確保による高度医療の維持
働きやすい勤務環境の整備
医療発展のための臨床研究の実施
教育体制の整備
医師少数地域における医師確保

患者に信頼される病院

患者中心の医療の展開
救急・小児・周産期医療の確保
ヘリポートや免震構造等の
災害拠点病院の機能確保
化学療法・がんゲノム医療などの
がん医療の提供

地域医療連携の強化

地域完結型医療の実現
医師派遣による地域医療の支援
地域医療機関との連携強化

経営の健全化

健全な経営基盤による
高度医療の維持
公設公営の維持
高度な医療機器の整備と機能拡充
主たる収入（診療報酬）の確保

令和8年5月上旬の診療開始に向け準備着々と

小田原市立総合医療センターは、開院予定を1年以内となってまいりました。令和7年5月20日は、関係者で上棟式を行うなど、新たなスタートとなる開院日に向け、新病院の建設事業は、着実に歩みを進めています。近隣地域の皆様や市立病院の御利用者の皆様には、建設工事に伴い、御不便、御迷惑をおかけしておりますことをお詫び申し上げます。また、引き続き、御理解と御協力をお願いします。

御寄附のお願い

地域医療を守るためには、公立病院の果たす役割は、年々、その重要性が増しております。特にコロナ禍以降、多くの病院が赤字経営を余儀なくされ、その後の物価高騰、人件費高騰はさらに病院経営に大きな影響を与えてきています。当院は、これまで安定的な経営を行ってきましたが、新病院建設においては、建設費や医療機器、物流コスト増が安定的な経営に影響を与えるリスクがあります。今後も持続可能な病院経営を行うためには、地域の皆様や患者さん、その家族の方など、多くの皆様の御理解と御支援が必要不可欠となります。新病院建設事業の推進にあたり、皆様の御支援、御協力をよろしくお願いします。



病室のイメージ



ガレリアのイメージ

森本内科医院 (内科・循環器内科)



森本 浩司
院長

当院は昭和46年に小田原市立病院OBの父が荻窪の現在の地に開院し、地域医療に従事して現在に至ります。私は2代目として高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病、心臓病（虚血性心疾患、不整脈など）、動脈硬化性疾患及び内科全般の診療を行っています。特に専門とする循環器

内科の診療では心電図（ホルター心電図を含む）、心エコー、動脈硬化の評価（頸動脈エコー、血圧脈波）などの検査を実施しており、患者さんに丁寧に分かりやすく説明する診療を心掛けています。

小田原市立病院には救急対応が必要な患者さんの受入や専門的な精査、診療が必要な患者さんの紹介など日頃から大変お世話になっています。

今後も小田原市立病院と病診連携を取りながら地域医療に貢献していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



住所：小田原市荻窪472

電話番号：0465-35-3703

診療時間：午前 8：45～12：00

（受付時間～11：30）

午後 13：30～17：30（受付時間～17：30）

但し午後13：30～16：00は検査・健診の予約制（一般診療は16：00から開始）

火曜日午後は16：00で終了

休診日：木曜日、土曜日の午後、日曜日、祝日

心身クリニークくぼくら（旧窪倉神経更生院） (心療内科、精神科、漢方内科、内科)



窪倉 正一
副院長

戦後祖父である窪倉精一がはじめた窪倉神経更生院から、数年前に心身クリニークくぼくらへ名称変更しました。建物新築し、父である院長の明雄とわたくし副院長の正一2人体勢で診療しております。また、曾祖父は隣接する神山神社の神主として務め、漢

方医として地域の皆様の診療に当たっていたと聞いております。現在心療内科、精神科、漢方内科、内科を標榜し、外来診療と訪問診療を行っています。

心療内科、漢方内科を受診される患者様には、心理的な病状に加え自律神経の失調や、身体的な不調を併発している場合も多く、検査や診断、治療をお願いすることも多く、小田原市立病院と連携を取りながら地域のお役に立てるよう診療をしてみたいと思います。



住所 小田原市久野237

電話番号 0465-34-3980

外来診療時間 9:00-13:00（受付時間 8:30-11:30）

訪問診療時間 14:30-17:00

休診日 木曜日 日曜日 祝祭日